

プログラム 外国人観光客の来訪を促進する

プログラムの政策目標

国際相互理解の増進や我が国文化の発信、新しい文化の創造といった観点から、更なる外国人観光旅客の来訪増加を促進し、将来的には3,000万人とする。

アウトカム

訪日外国人旅行者数

関連する事業・施策

【首都圏空港の強化】

羽田空港の24時間国際拠点空港化を推進するとともに、成田空港のアジアのハブ空港としての地位確立を目指し、首都圏空港の機能を強化する。

- ・滑走路の延伸、エプロンの増設、航空交通システムの高度化
- ・首都圏空港を含めた徹底したオープンスカイの推進

【LCCの参入促進】

LCCの参入に対応するため、受け入れ空港として必要な機能を強化する。

【空港旅客ターミナル諸施設の機能向上】

国際線乗り入れに必要な空港旅客ターミナル諸施設の整備を進める。

【訪日外国人旅行者の受入環境整備】

戦略拠点や地方拠点の整備、自主的な受入環境整備の支援等を行い、訪日外国人旅行者の受入環境の整備を行う。

【無電柱化の推進】

市街地の幹線道路等において、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観・住環境の形成、災害の防止、情報通信ネットワークの信頼性の向上、歴史的街並みの保全、観光振興、地域文化の振興、地域活性化等に資する箇所を、電線管理者等と連携して、電線類の地中化等による無電柱化を推進する。

【日本海側拠点港の形成】

日本海側各港湾の役割の明確化と施策の集中による、日本海側港湾のさらなる競争力強化を図り、対岸諸国の経済発展を我が国の成長に取り込んでいくための拠点港を形成する。

【客船クルーズの振興】

外国クルーズ船の日本寄港促進のためのソフト・ハードの取組を推進する。

【旅客船ターミナルビルの整備】

国際競争力の高い魅力ある観光地を形成するための、旅客の乗降、待合等を快適にする施設を整備する。

アウトプット

① 今後実施すべき事業・施策の必要量、箇所数等を示す。

- ・羽田空港の発着容量を37.1万回(H22.10)から44.7万回(最短で2013年度中)に、成田空港の発着容量を22万回(H22.10)から30万回(最短で2014年度中)に増やす。
- ・需要が更に継続的に増加する場合を見据え、首都圏空港の更なる容量拡大、機能強化について、あらゆる角度から可能な限りの方策を総合的に検討する。
- ・首都圏空港の容量拡大により、旺盛な首都圏の国際航空需要に対応した国際線の路線・便数の拡大が可能となり、訪日外国人旅行者数の増加に寄与する。あわせて、国内航空ネットワークを活用した乗り継ぎの利便性を向上させることにより、訪日観光の振興に資する。

② 政策目標達成のために、どのように寄与するか示す。

③ 上記の事業・施策の中から、連携して実施することにより得られる効果を示す。